

第2章 集計の概要

1. 集計の対象

(1) 罹患日の期間

2019年1月1日から2019年12月31日まで

(2) 調査の期間

届出票受領期間：2019年1月1日から2022年12月31日まで

遡り調査期間：2021年9月6日から2021年10月29日まで

(3) 集計日

2022年12月28日

(4) 集計対象となるがん

第1章 3. 『届出対象となるがん』と同一である。

(5) 精度指標

MI比：0.34

DCI割合：3.63%

DCO割合：2.37%

MV比：87.41%

HV比：84.79%

2. データ収集状況

(1) 届出票

2019年診断症例の届出票は、総計176,438件であった(重複、対象外を含む。)。そのうち、99.7%を診断年翌年末までに受領している。

図2-1 届出票（2019年）受領状況

(N=176,438件)

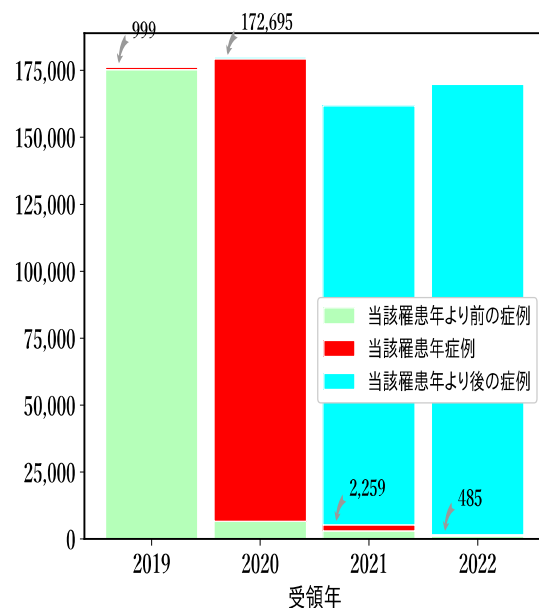
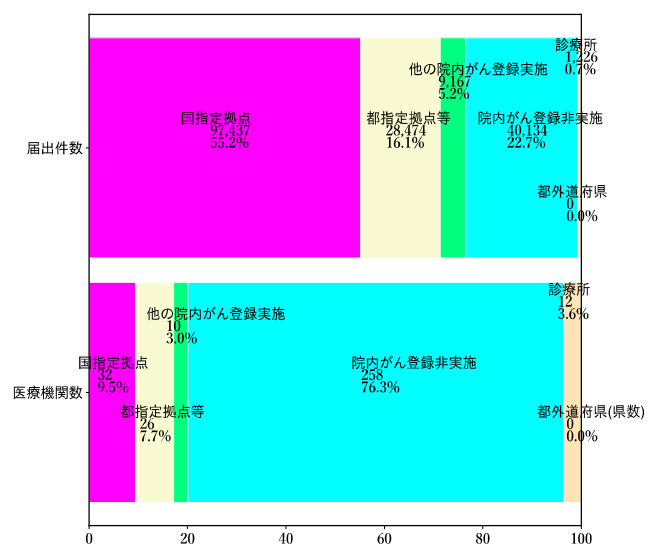


図2-2 届出票（2019年）医療機関別件数

(N=176,438件)



(2) 死亡票

全国がん登録事業では、死亡票は法定業務として国が一括して取り扱うこととなったため、東京都がん登録室では、2016年以降の死亡票の収集は行っていない。

(3) 遡り調査票

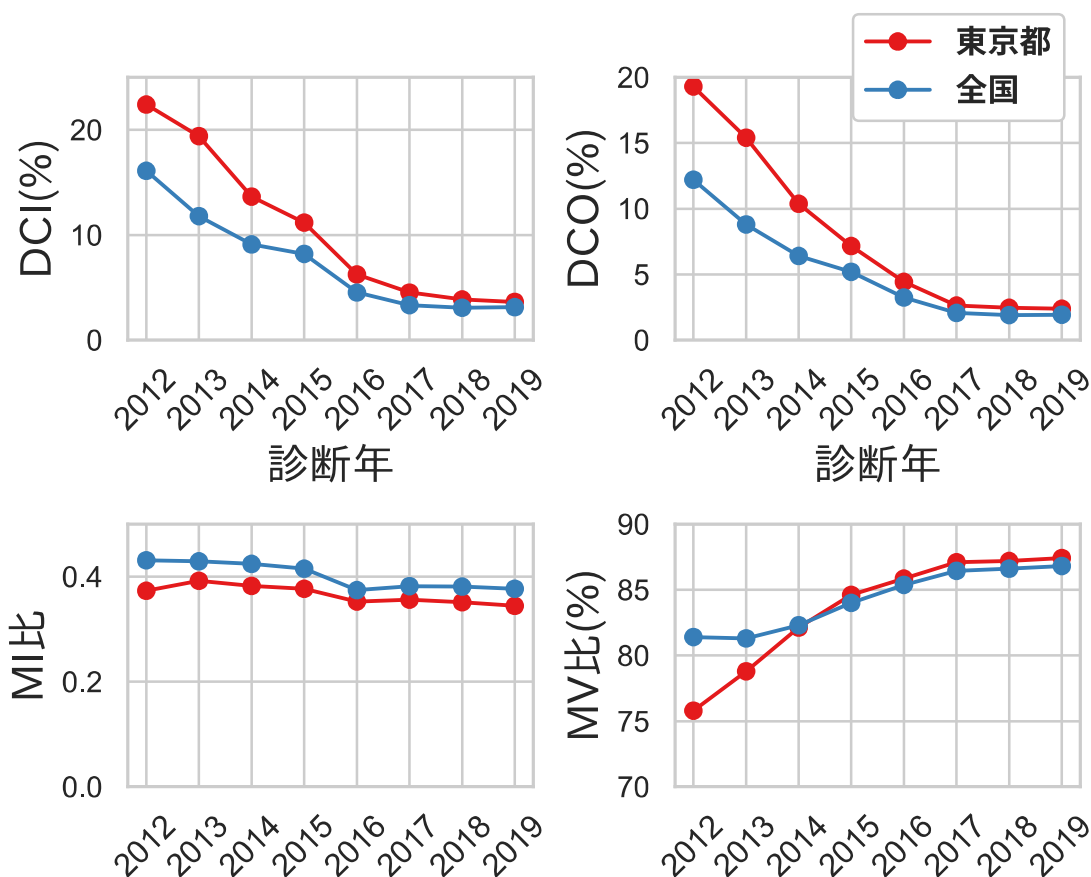
2019年(死亡)遡り調査対象症例は、2888件(451病院)であった。遡り調査に対する回答は2529件(全遡り調査に対する回答率87.6%)、378病院(同83.4%)であった。

(4) がん登録の精度

①がん登録精度指標の改善状況

2012年に地域がん登録として始まった東京都におけるがん登録の精度指標は、全国レベルと歩調を合わせる形で漸次改善している(図2-3)。

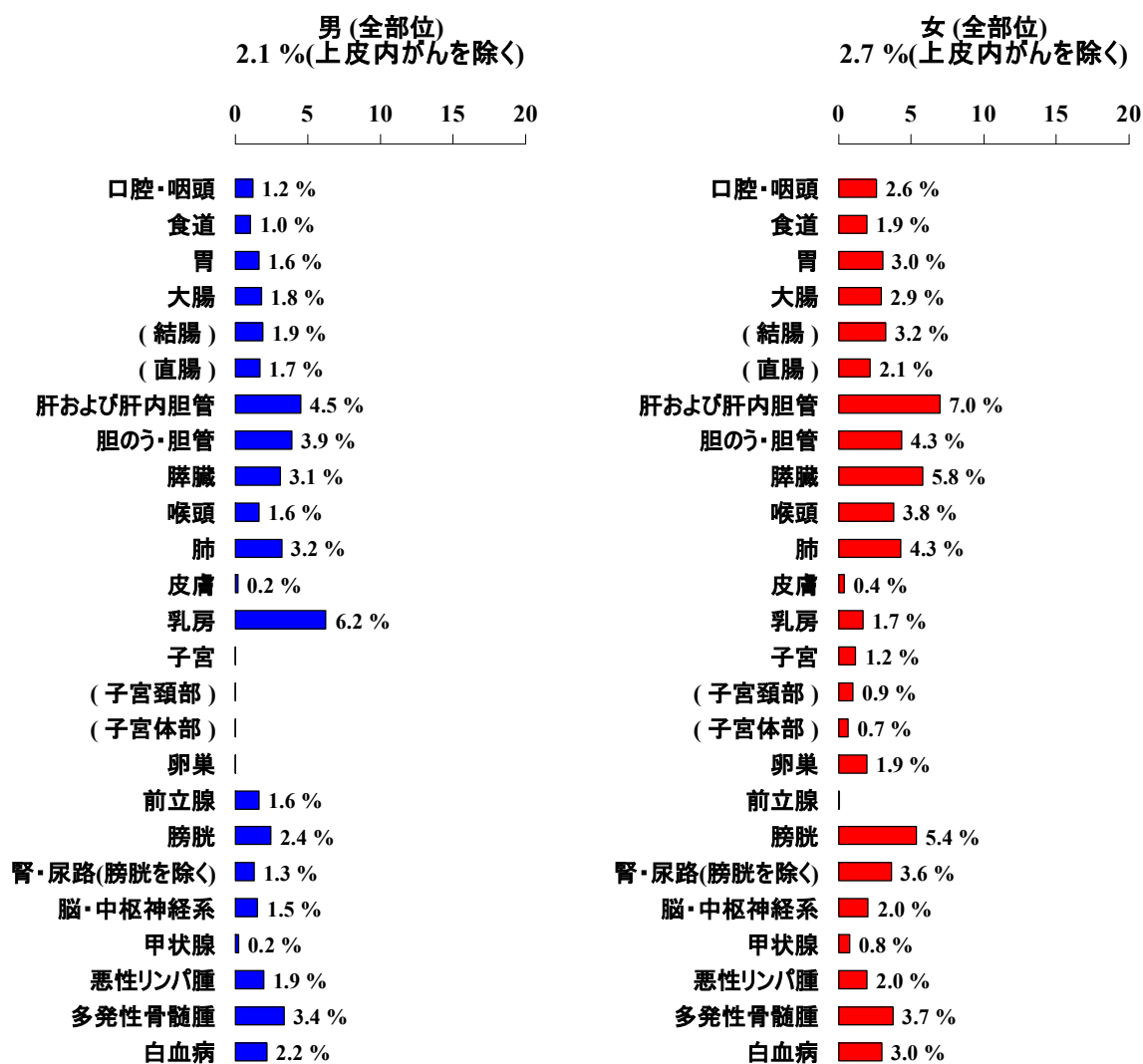
図2-3 がん登録の精度指標の推移



②部位別・性別DCOの違い（表3-8-A/B）

DCOが低いのは、男では皮膚、甲状腺、食道、口腔・咽頭、腎・尿路（膀胱除く）などであり、女では皮膚、甲状腺、子宮、乳房、食道などである。逆にDCOが高いのは、男では、肝および肝内胆管、胆のう・胆管、多発性骨髄腫であり、女では肝および肝内胆管、膵臓、膀胱である。（図2-4）。

図2-4 部位別・性別DCO（2019年）（上皮内がんを除く）

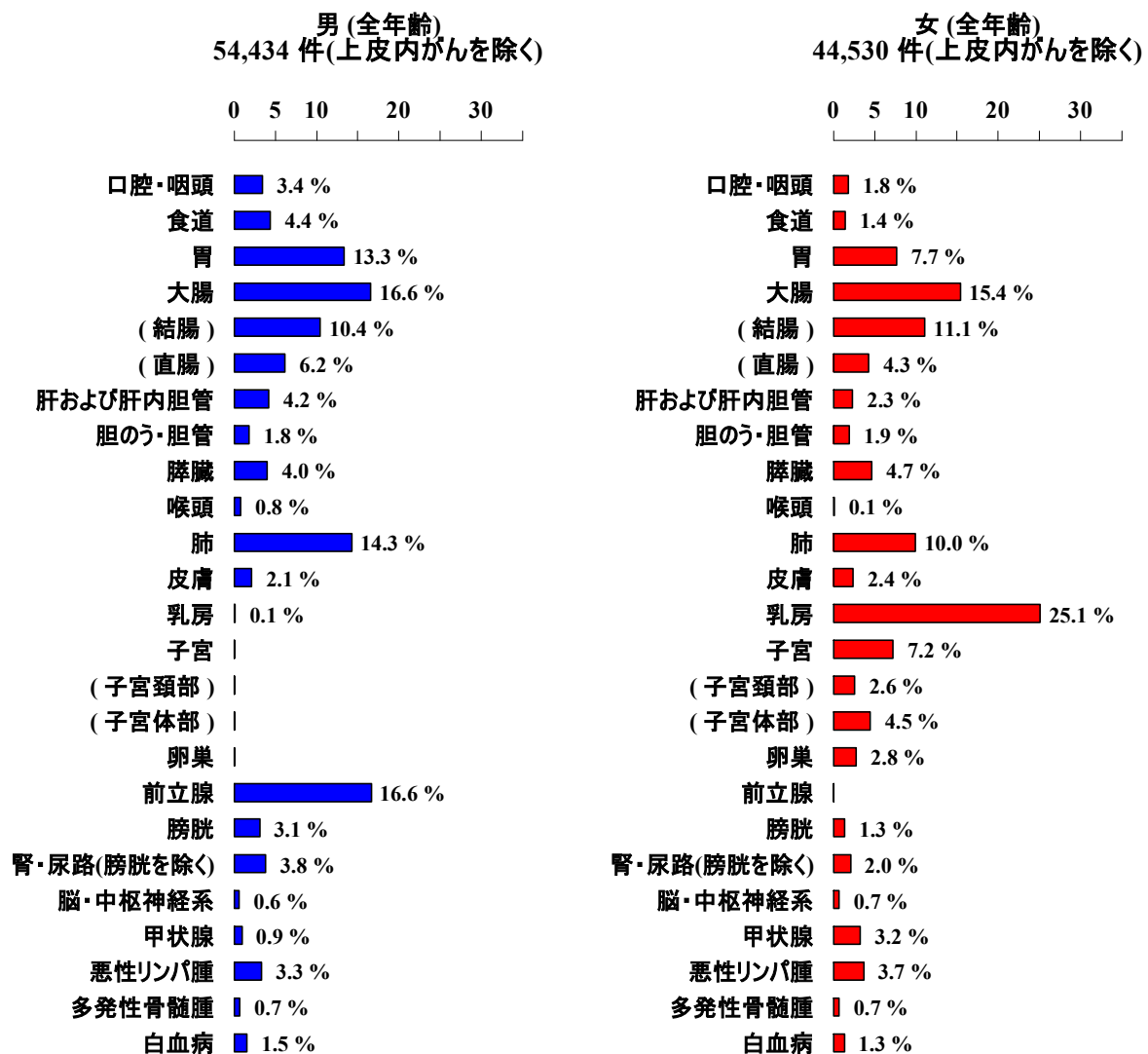


3. がん罹患の概要

(1) 部位別・性別罹患数（表3-1-A/B）

届出票と死亡票の情報を集約したがん罹患数は、上皮内がんを除いた場合、男性54,434件、女性44,530件で、男女計で98,964件（性別不詳を含む）であった。上皮内がんを含めた場合、男性59,413件、女性51,204件で男女計110,617件（性別不詳を含む）であった。上皮内がんを除いた、男性の最も多い罹患部位は、前立腺（16.6%）、大腸（結腸、直腸）（16.6%）であり、肺（14.3%）、胃（13.3%）と続く。女性の最も多い罹患部位は、乳房（25.1%）であり、次いで、大腸（結腸、直腸）（15.4%）、肺（10.0%）、胃（7.7%）、子宮（子宮頸部、体部）（7.2%）と続く（図2-5）。

図2-5 部位別・性別罹患件数・割合（2019年）（上皮内がんを除く）（年齢不詳を含む）



(2) 年齢別がん罹患 (表 3-2-A/B、3-3-A/B)

2019年のがん罹患数(上皮内がんを除く)の年齢別の内訳を見ると、65歳以上が、男性77.5%、女性63.5%を占めている。一方、40～64歳は、男性が20.5%であるのに対して、女性は32.0%となっている(図2-6)。

上皮内がんを除くがん罹患数は、男性は対女性比で22.2%(9,904件)多いが、生産年齢人口の対象となる15～64歳に限ると女性は対男性比で33.2%(4,025件)多い。これは、この時期に女性の乳房と子宮に発生するがんが多いためである(図2-7)。

年齢階級別罹患率を見ると、男女とも年齢とともに罹患率は上昇するが、特に50歳を超えると上昇する。また、5～9歳代から50歳代後半の間は、女性の方が男性より罹患率は高く、それ以外の年齢階級では、男性の方が高い。

部位別に特記すべき点を挙げる。女性の場合、乳房は30歳代後半から、子宮頸部は上皮内がんを含めると、20歳代から30歳代にかけて上昇している。年齢のピークは、乳房では、40歳代から70歳代にあり、40歳代後半と60歳代後半の二峰性である。子宮頸がんは上皮内がんを含む場合、30歳代から40歳代前半がピークである。また、直腸と食道は、男性の場合のみ、70歳代がピークとなっている(図2-8)。

図 2-6 がん罹患年齢群別内訳 (2019年) (年齢不詳を除く)

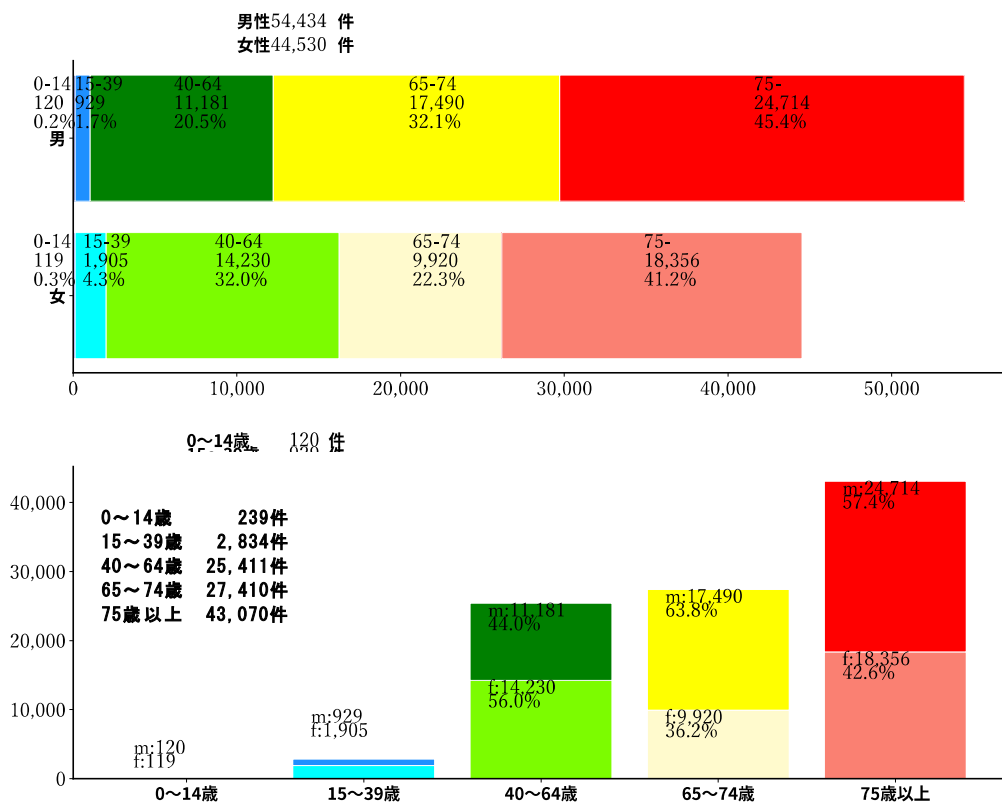


図2-7 がん罹患年齢群別部位別内訳 (%) (2019年) (年齢不詳を除く)

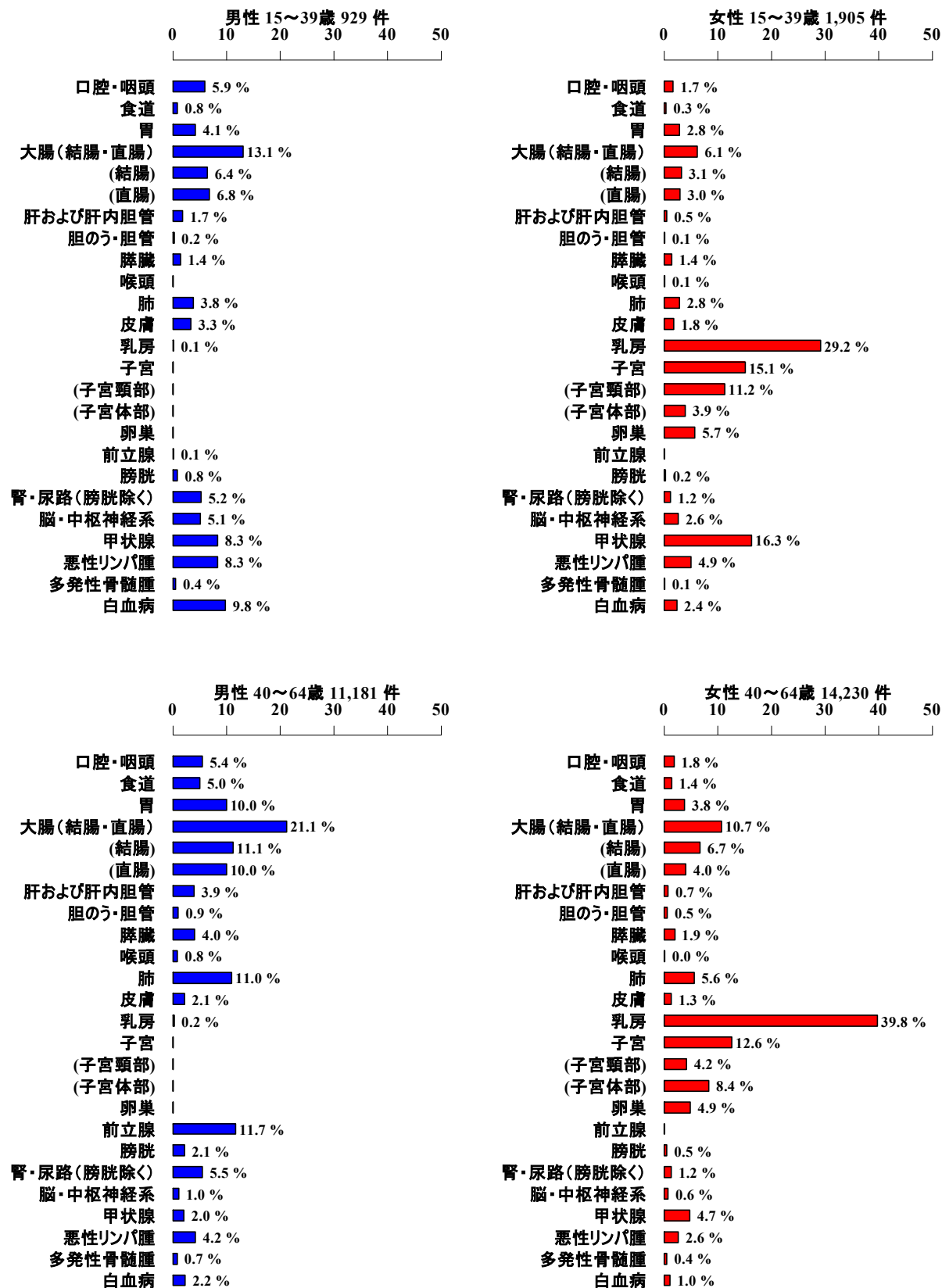


図2-7 がん罹患年齢群別部位別内訳 (%) (2019年) (続)

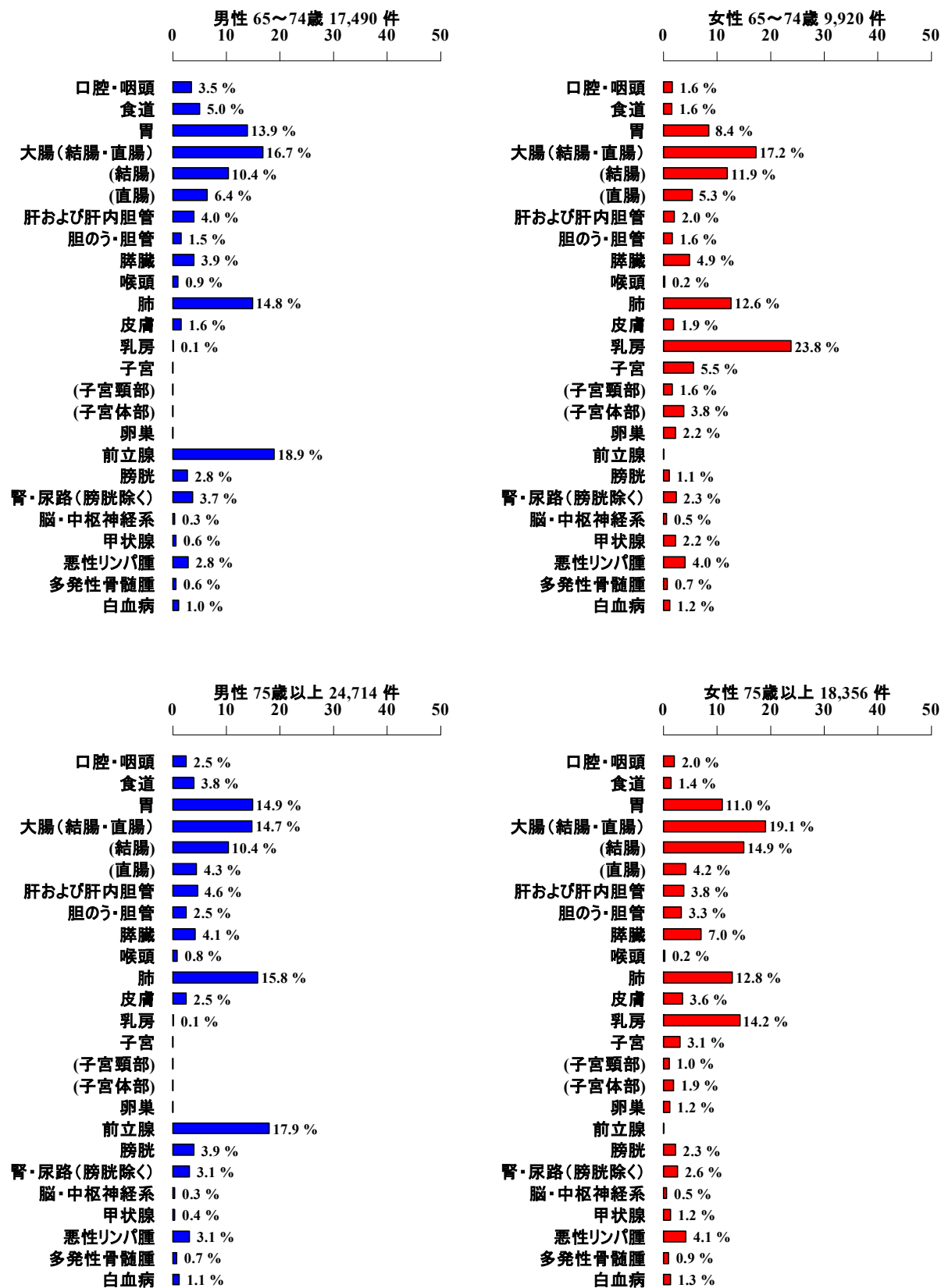


図2-8 部位別年齢階級別罹患率（2019年）：人口10万対

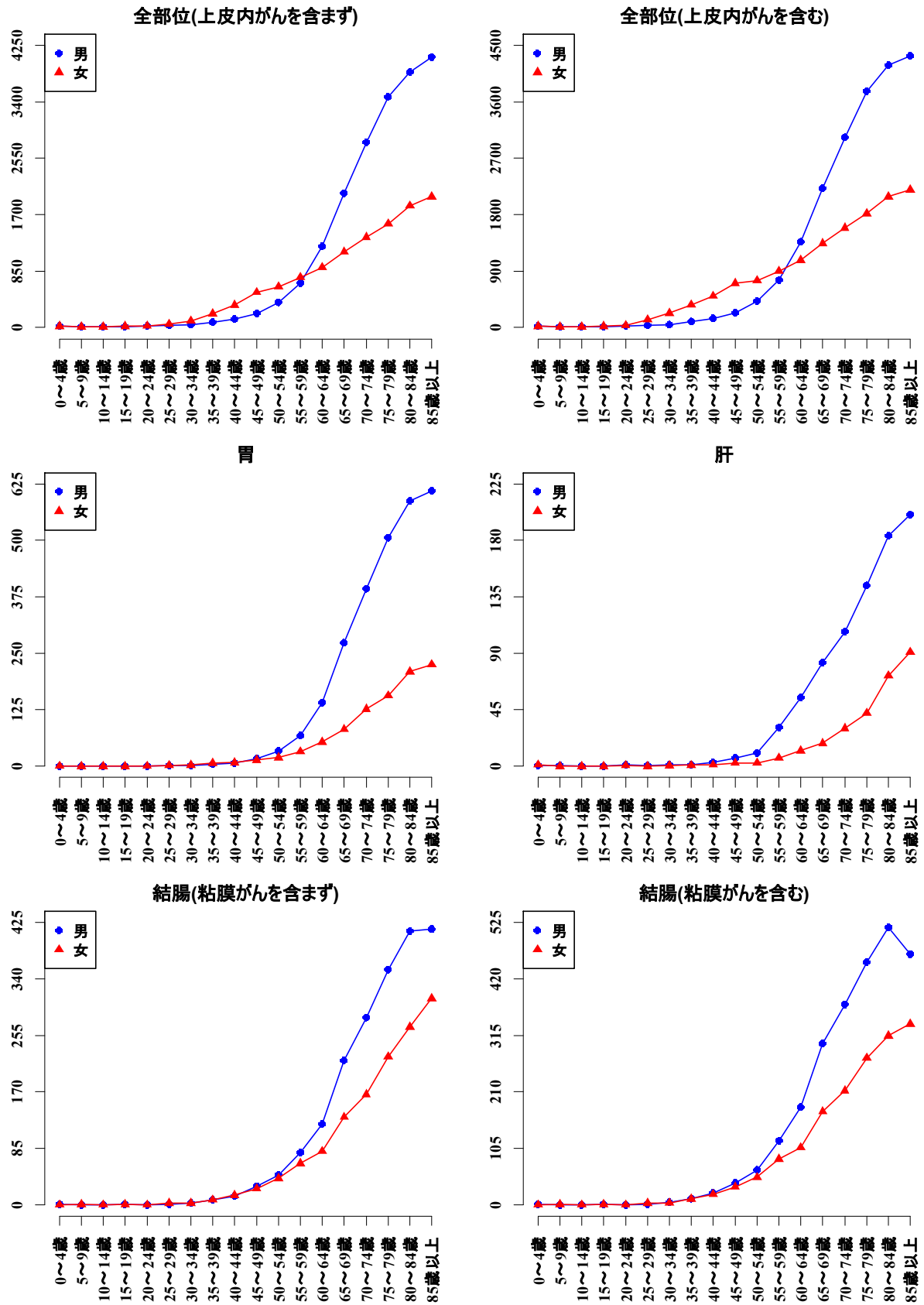


図2-8 部位別年齢階級別罹患率（2019年）：人口10万対（続）

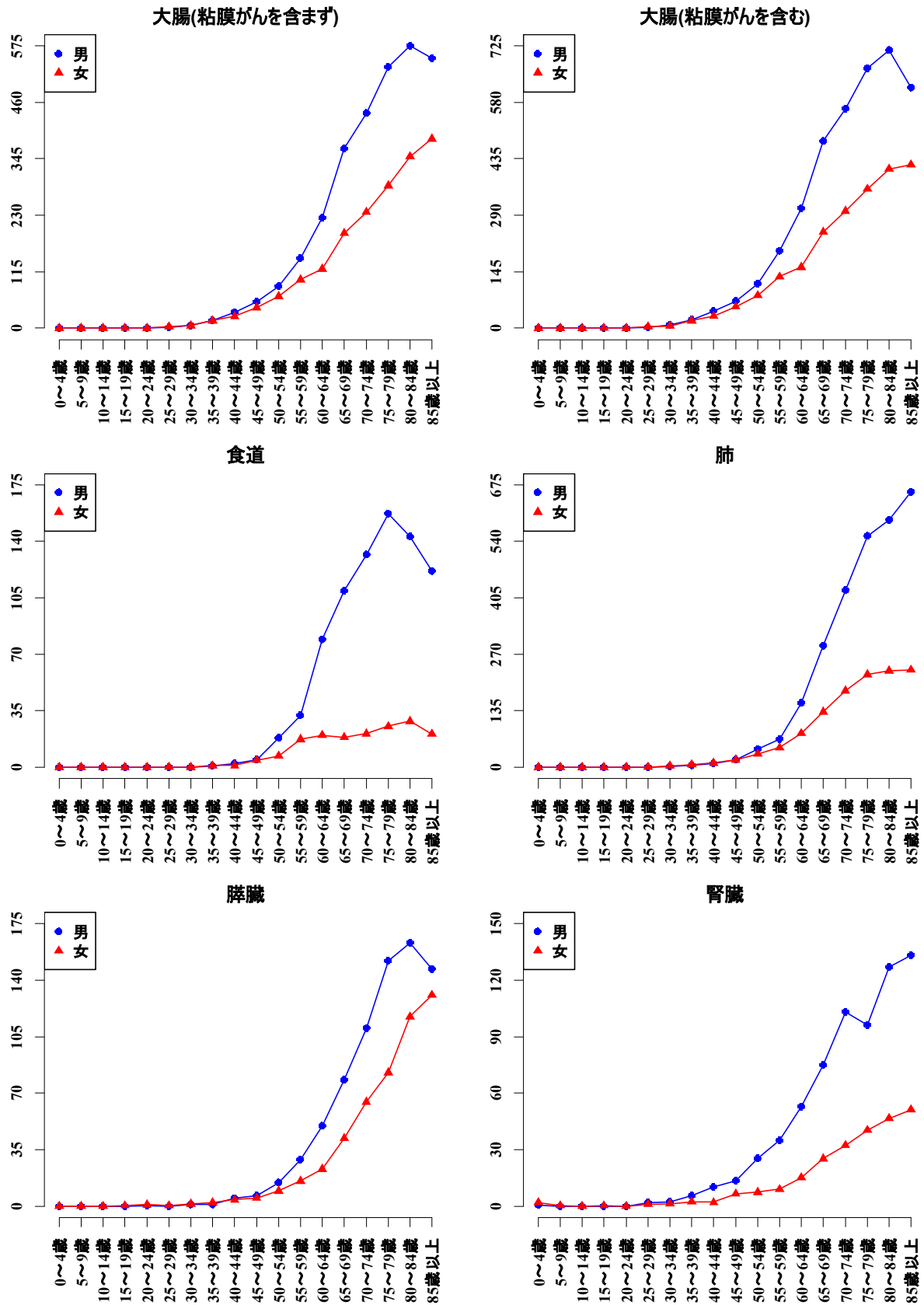
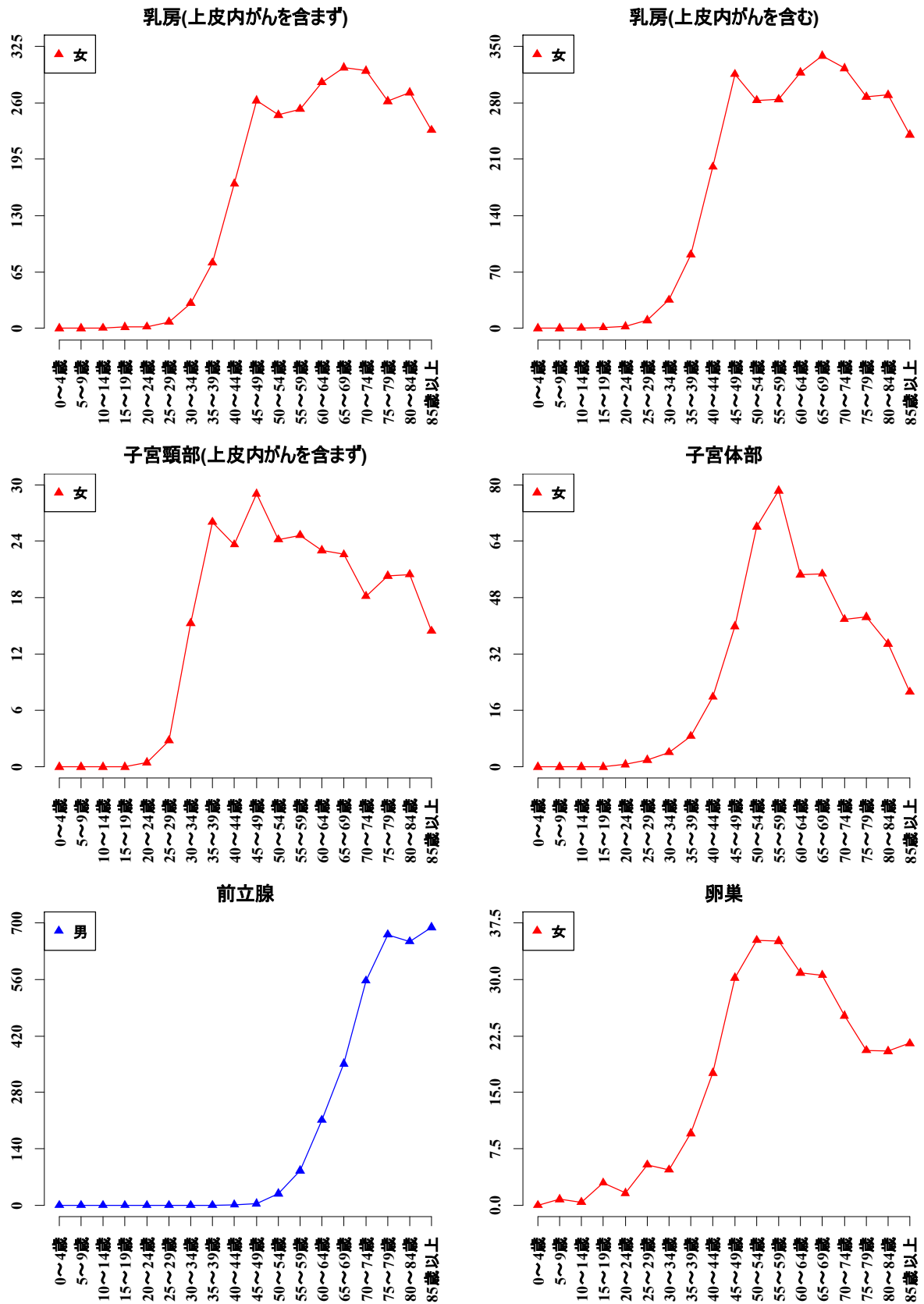


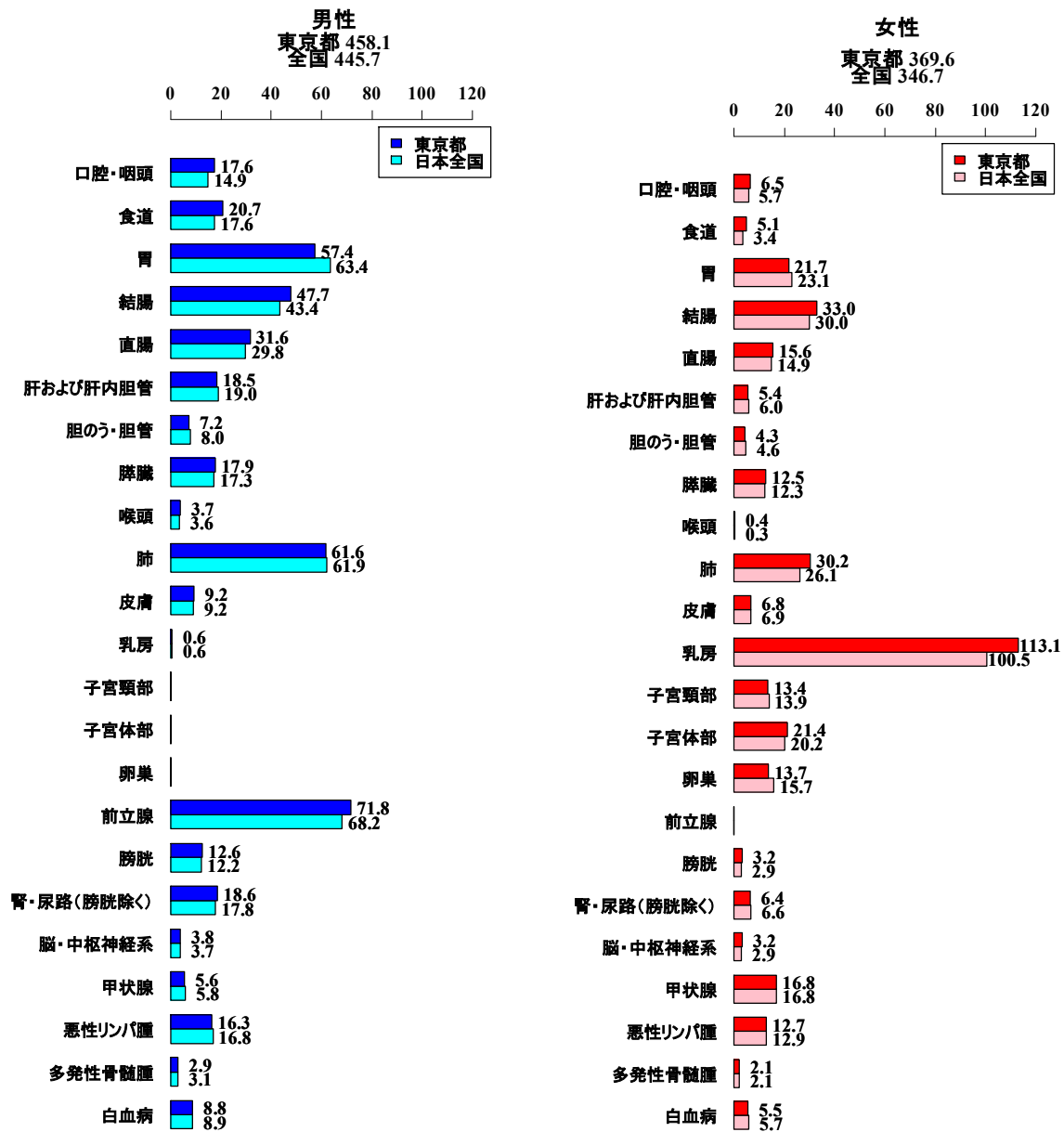
図2-8 部位別年齢階級別罹患率（2019年）：人口10万対（続々）



(3) 年齢調整罹患率（2019年）（表3-1-A）

東京都の年齢調整罹患率（上皮内がんを除く、昭和60年日本人口モデルに基づく）は、人口10万人当たり、男性458.1、女性369.6である。全国での値は、男性445.7、女性346.7であるので、いずれも東京都の方が高い。部位別では、男女ともに全国と比して概ね同様に高い傾向があるが、男性では、胃は東京都の場合全国より低く、女性では乳房は東京都の場合、全国より顕著に高い（図2-9）。

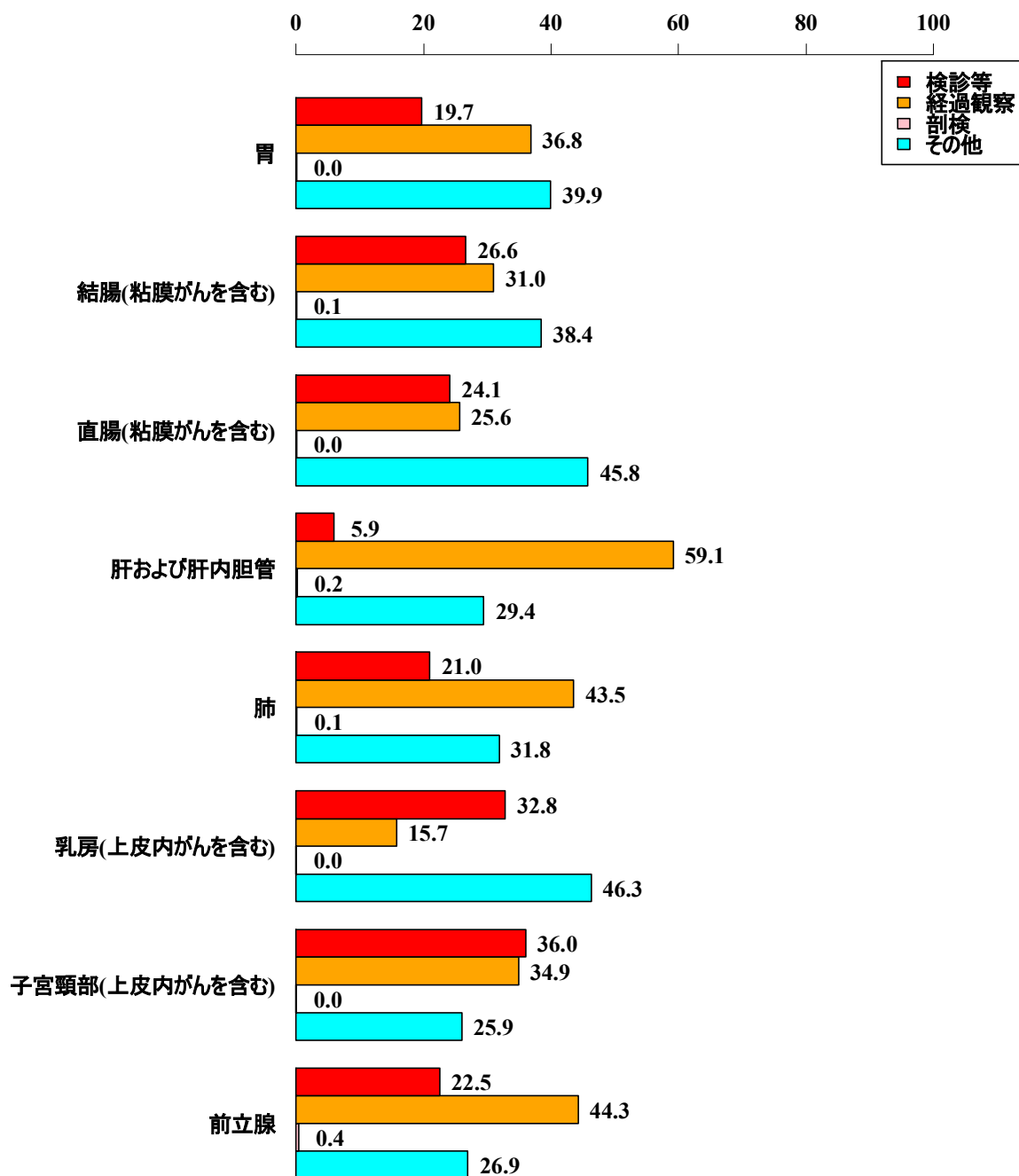
図2-9 部位別がん年齢調整罹患率（2019年）：人口10万対（全国推計値との比較）



(4) 発見経緯 (表3-4-A/B)

検診等（がん検診、健康診断、人間ドック等）が発見経緯になる部位は、子宮頸部、次いで乳房で割合が高い（子宮頸部においては経過観察よりも若干高い）。逆に、肝および肝内胆管では、経過観察の割合がきわめて高く、次いで前立腺、肺で高い（図2-10）。

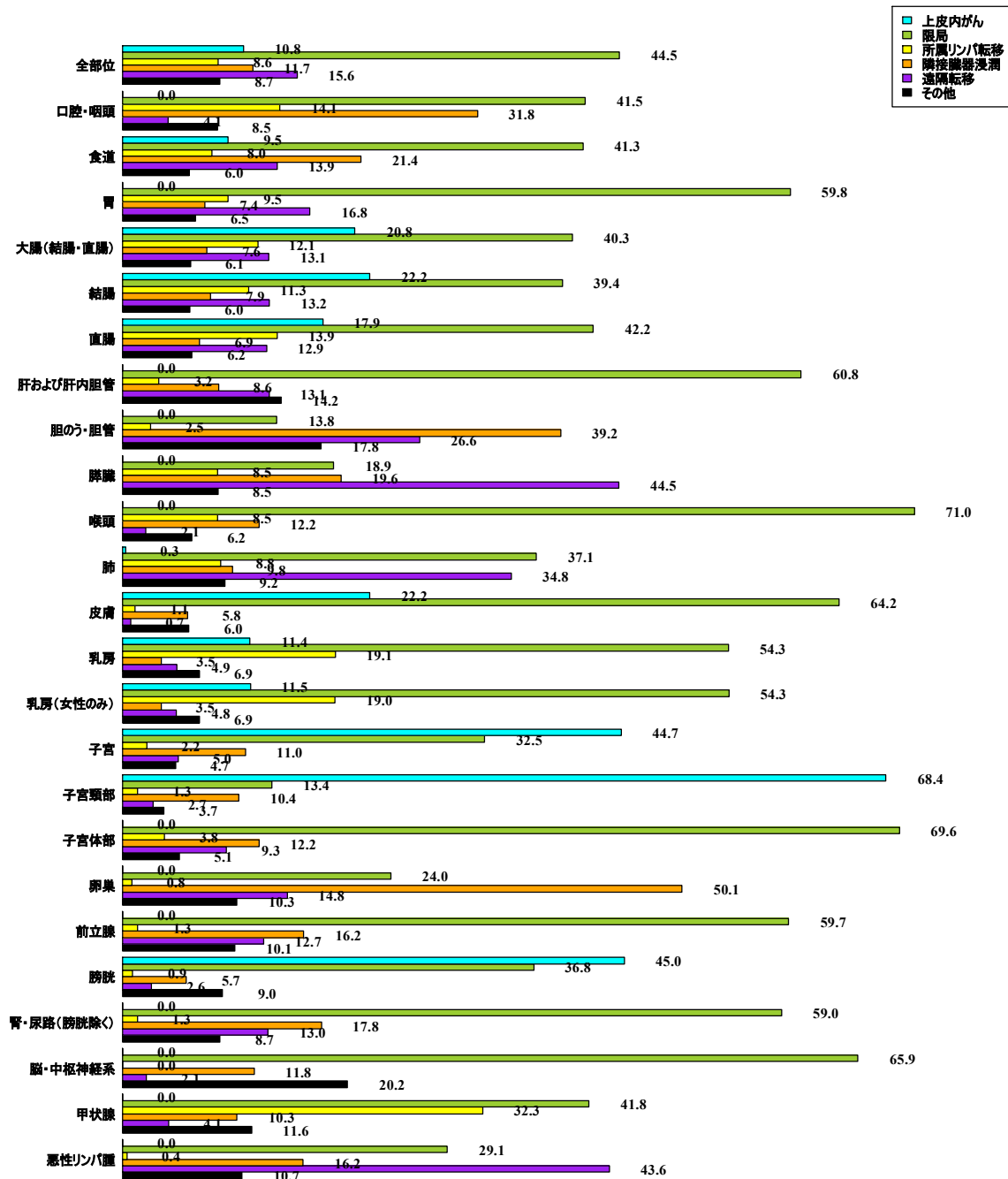
図2-10 部位別発見経緯割合（％）（2019年）（DCO症例を除く）



(5) 病期 (表3-5-1-A/B)

脳・中枢神経系、甲状腺、悪性リンパ腫以外で所属リンパ節転移以上の進行の割合の高い部位は、膵臓、胆のう・胆管、卵巣、肺であり、隣接臓器浸潤の割合の高い部位は、卵巣、胆のう・胆管、口腔・咽頭、遠隔転移の割合の高い部位は、膵臓、肺である (図2-11)。

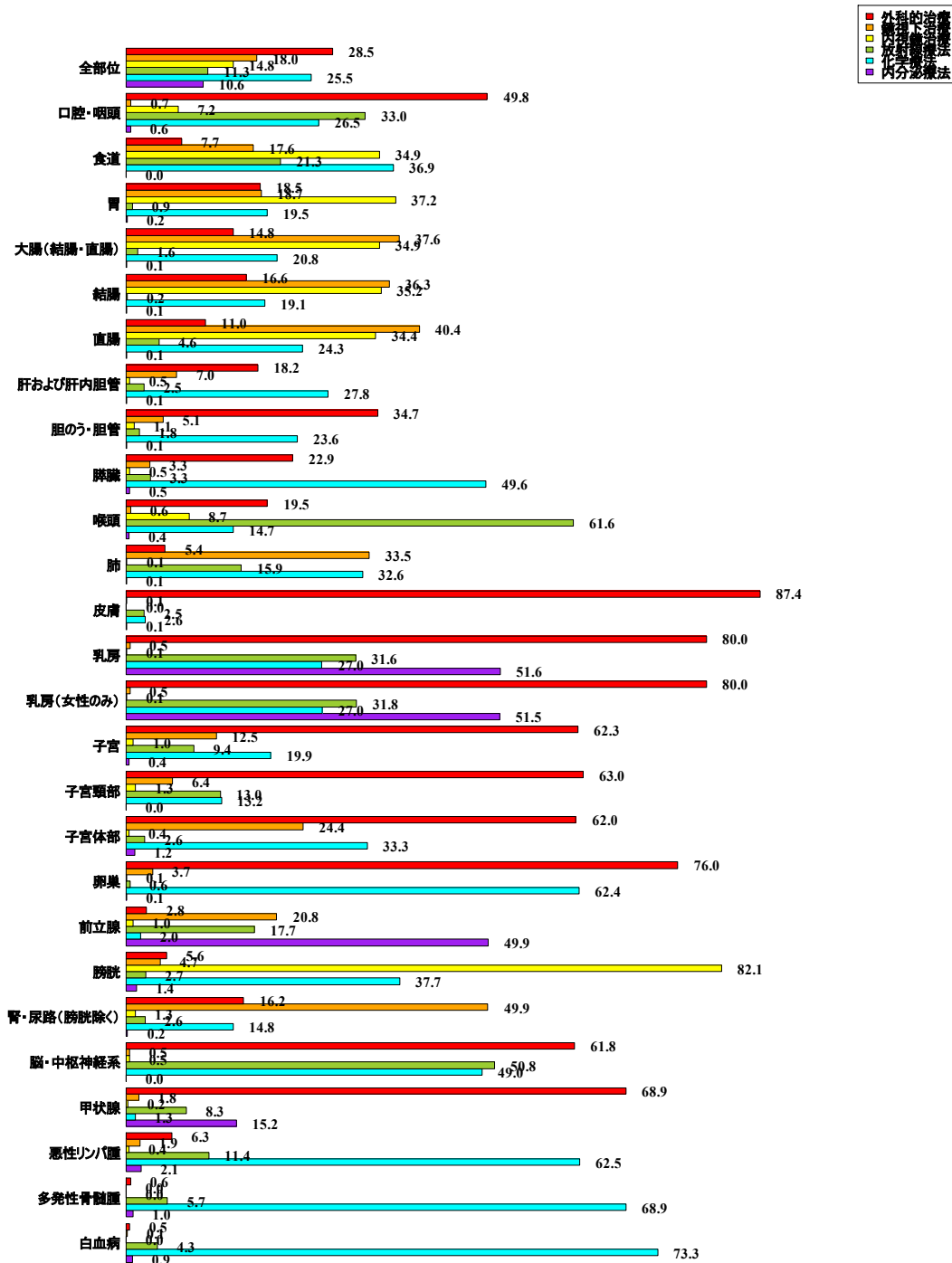
図2-11 部位別発見時病期割合 (%) (2019年) (DCO症例を除く)



(6) 初回治療内容 (表3-6-A/B)

造血器腫瘍（悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病）以外で薬物治療（化学療法+内分泌療法）の割合が高いのは、乳房、卵巣、前立腺、膵臓、脳・中枢神経系である。放射線治療の割合が高いのは、喉頭、脳・中枢神経系、口腔・咽頭、乳房、食道である（図2-12）。

図2-12 初回治療内容（上皮内がんを含む）（%）（2019年）（DCO症例を除く）



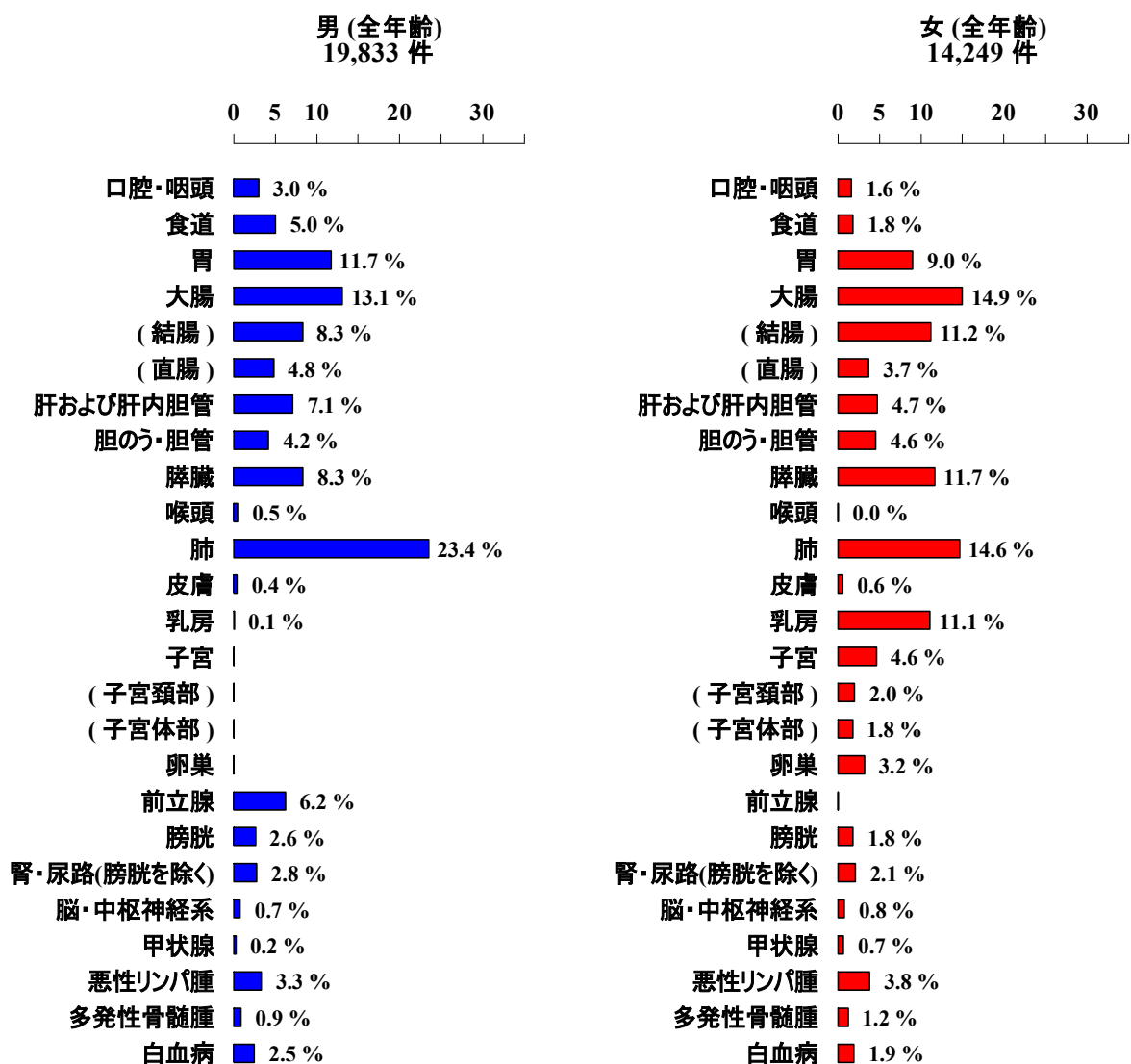
4. がん死亡の概要

(1) 部位別・性別がん死亡数（表3-9）

東京都において、2019年にがんによって死亡した者の数は、男性19,833名、女性14,249名、男女計34,082名である。

がん死亡数を部位別に見た場合、男性は、肺、大腸、胃、膵臓、肝および肝内胆管の順に多く、女性は、大腸、肺、膵臓、乳房、胃の順に多い（図2-13）。

図2-13 部位別・性別がん死亡件数・割合（2019年）（年齢不詳を含む）



(2) 年齢別がん死亡（表3-10/11）

2019年がん死亡の年齢別内訳を見ると、65歳以上での死亡が男性87.1%、女性84.5%と、ともに8割以上を占めている。一方、40～64歳は、男性で12.4%、女性は14.5%を占める。がん死亡数は、男性は対女性比で39.2%（5,584名）多い（図2-14）。

年齢階級別死亡率（図2-15）を見ると、男女とも年齢の上昇とともに増加するが、50歳を過ぎる頃から更に上昇する傾向にあるが、女性の乳房は、20歳代後半から、子宮は30歳代前半から死亡率が上昇する。

図2-14 がん死亡年齢群別内訳（2019年）（年齢不詳を除く）

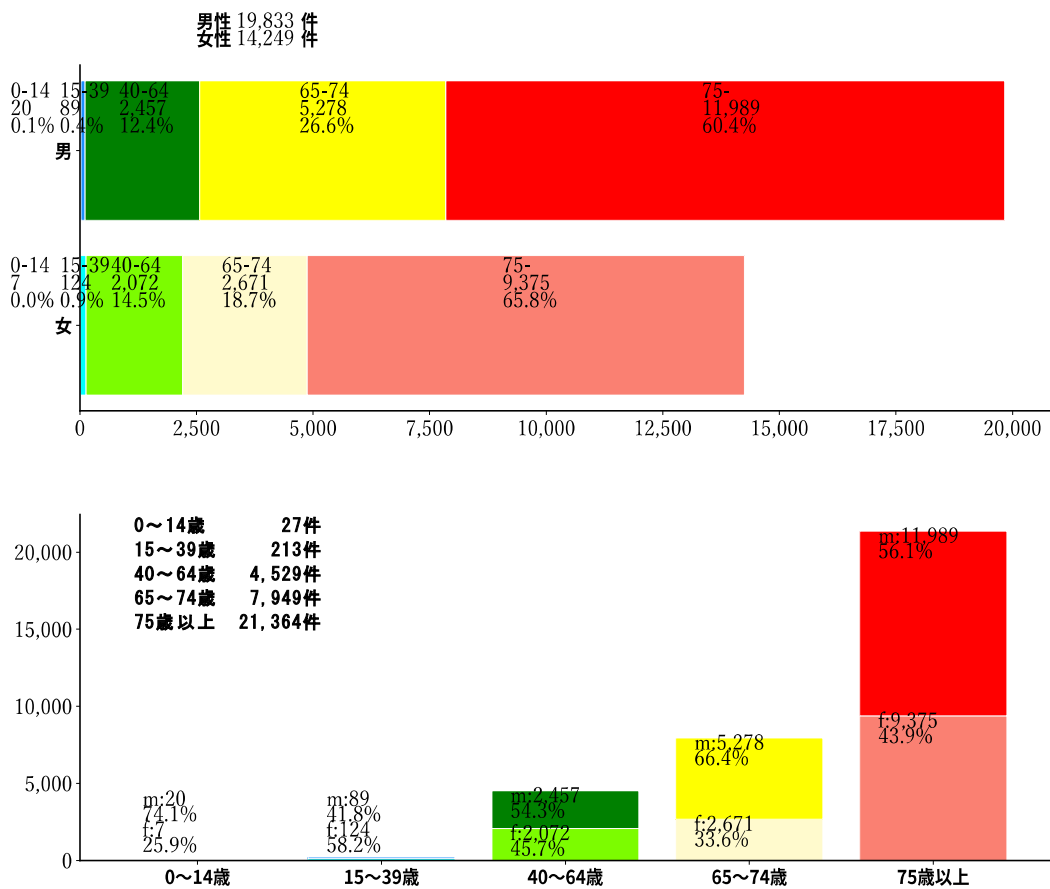


图2-15 部位別年齢階級別死亡率（2019年）：人口10万対

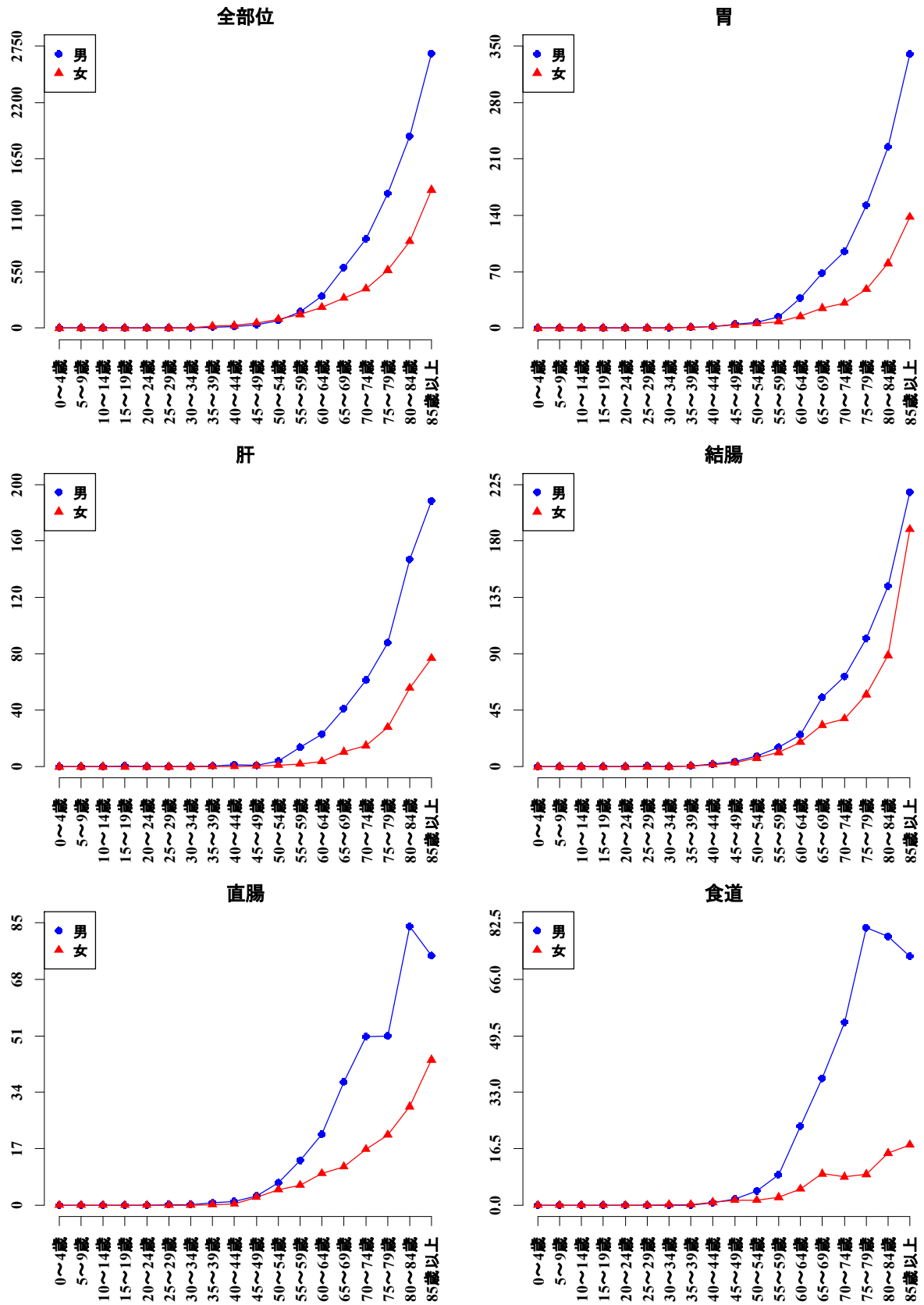
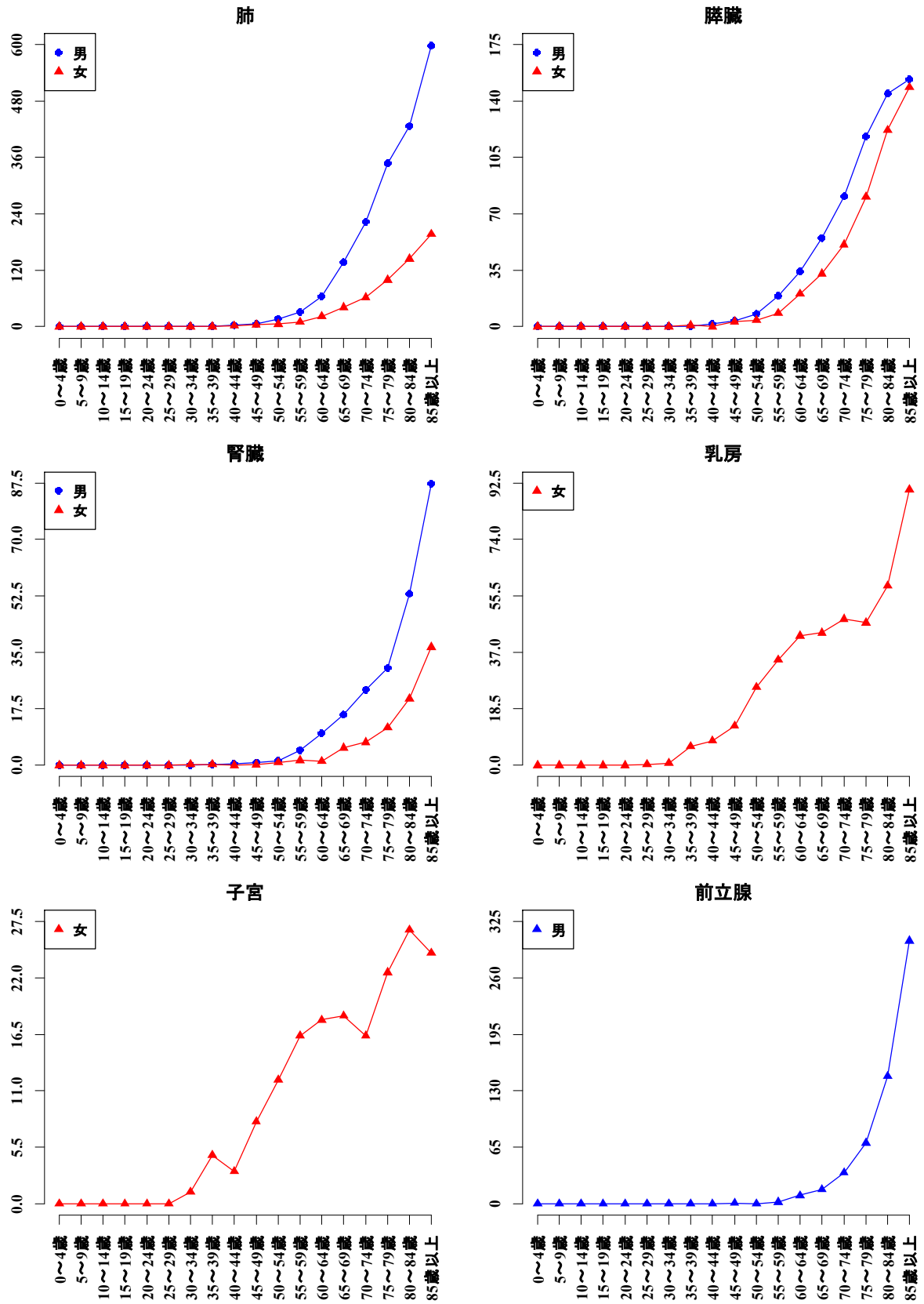


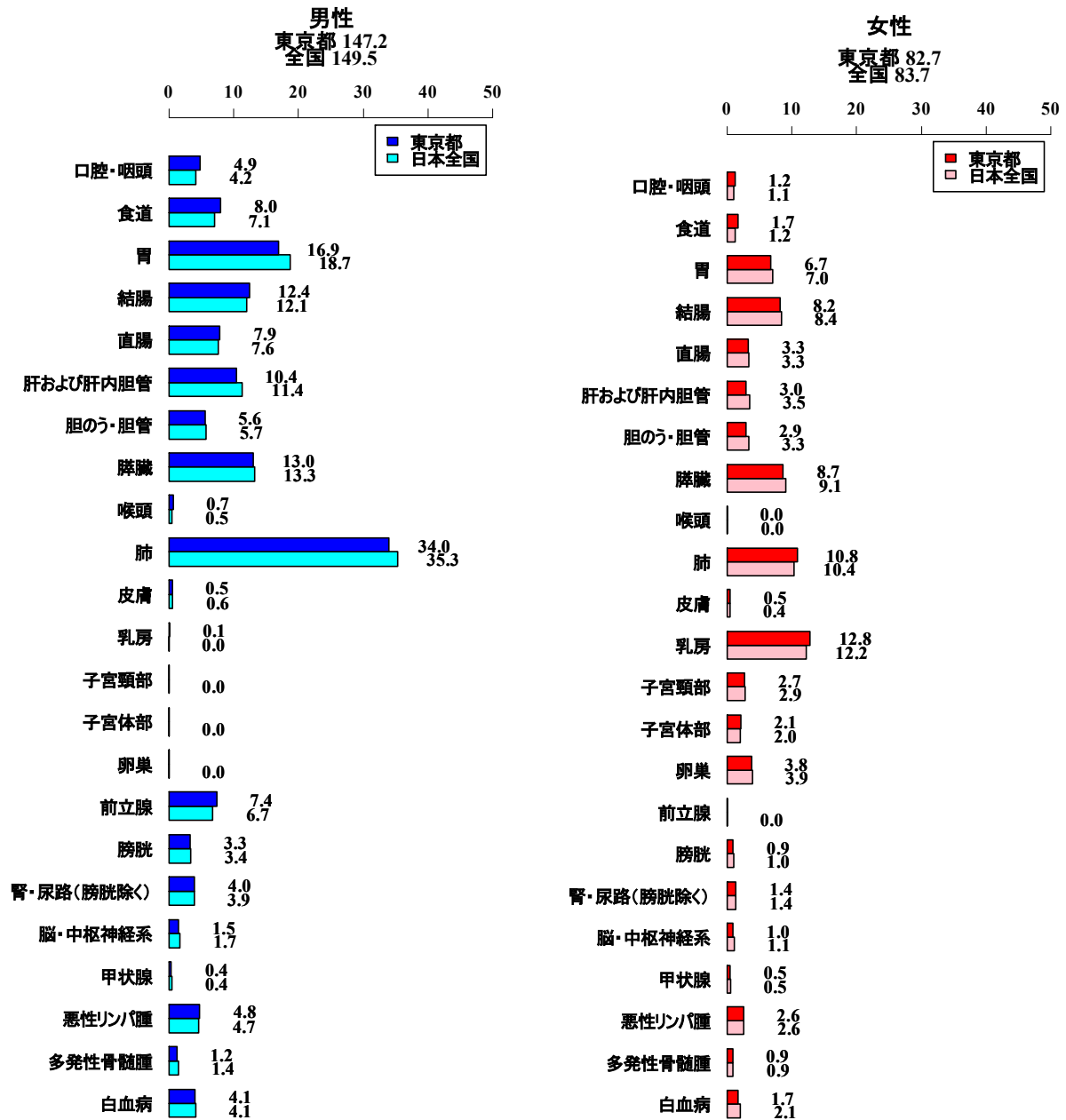
图2-15 部位別年齢階級別死亡率（2019年）：人口10万対（続）



(3) 年齢調整死亡率（表3-9）

東京都の年齢調整死亡率（昭和60年日本人口モデル）は、人口10万人当たり、男性147.2、女性82.7である。全国推計値は、男性149.5、女性83.7である。部位別では、男女ともに全国と比して概ね同様の傾向を示している。（図2-16）。

図2-16 部位別年齢調整死亡率（2019年）：人口10万対（全国推計値との比較）



5. 区市町村別がん罹患（付表3-5-A）

全部位及び胃、大腸、肺、肝臓、乳房について、区市町村別の男女別標準化罹患比をコロプレスマップとして示す。人口の少ない地域や頻度の低い部位については、標準化罹患比といえどもわずかな件数の違いで大きく変動してしまうため、部位としては主要ながんに限り、また島嶼部を除いた。ベイズ推定は行っていない。

図2-17-1 区市町村別がん罹患 全部位（上皮内がんを除く） 男性（2019年）

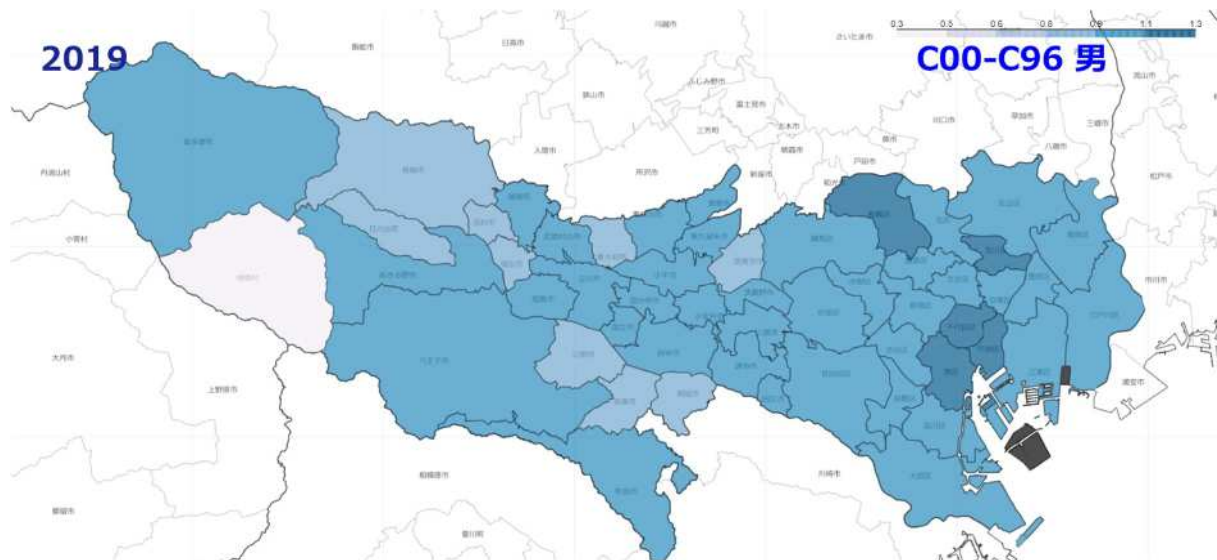


図2-17-2 区市町村別がん罹患 全部位（上皮内がんを除く） 女性（2019年）

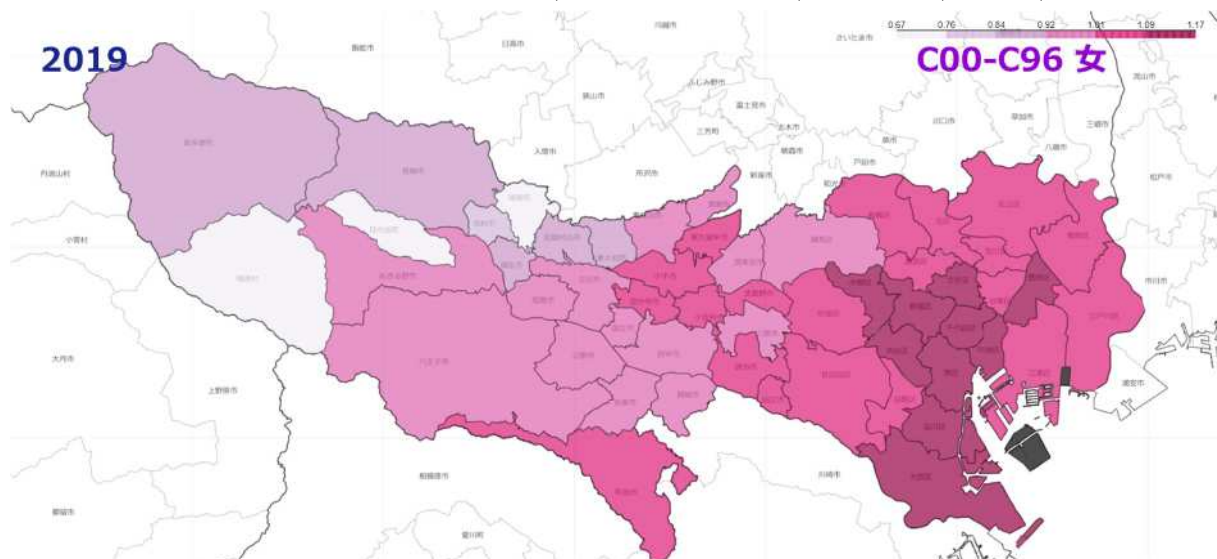


図2-17-3 区市町村別がん罹患 胃（上皮内がんを除く） 男性（2019年）

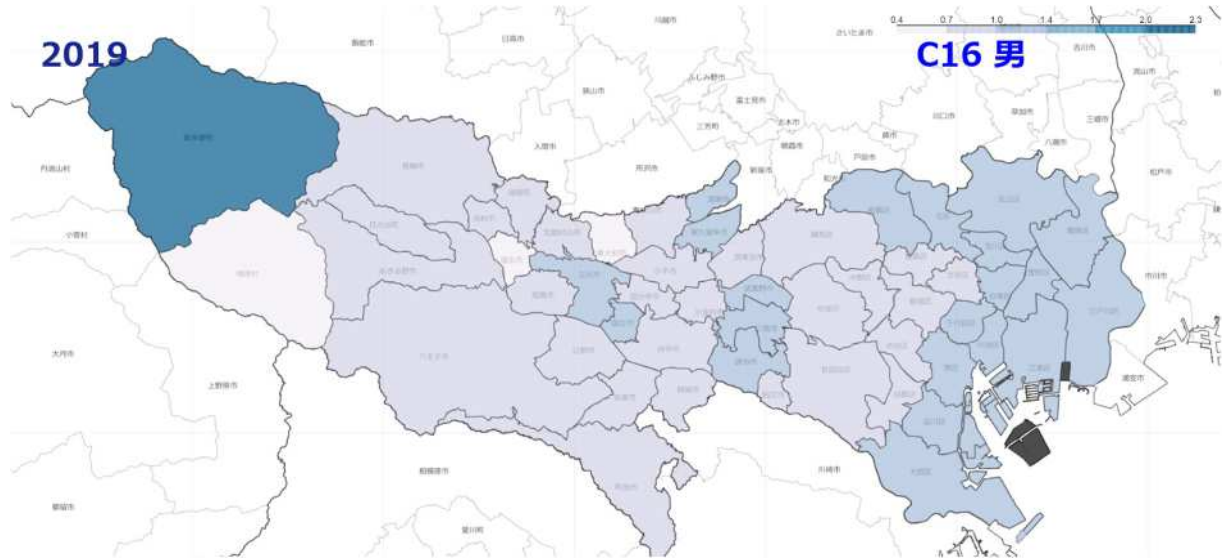


図2-17-4 区市町村別がん罹患 胃（上皮内がんを除く） 女性（2019年）

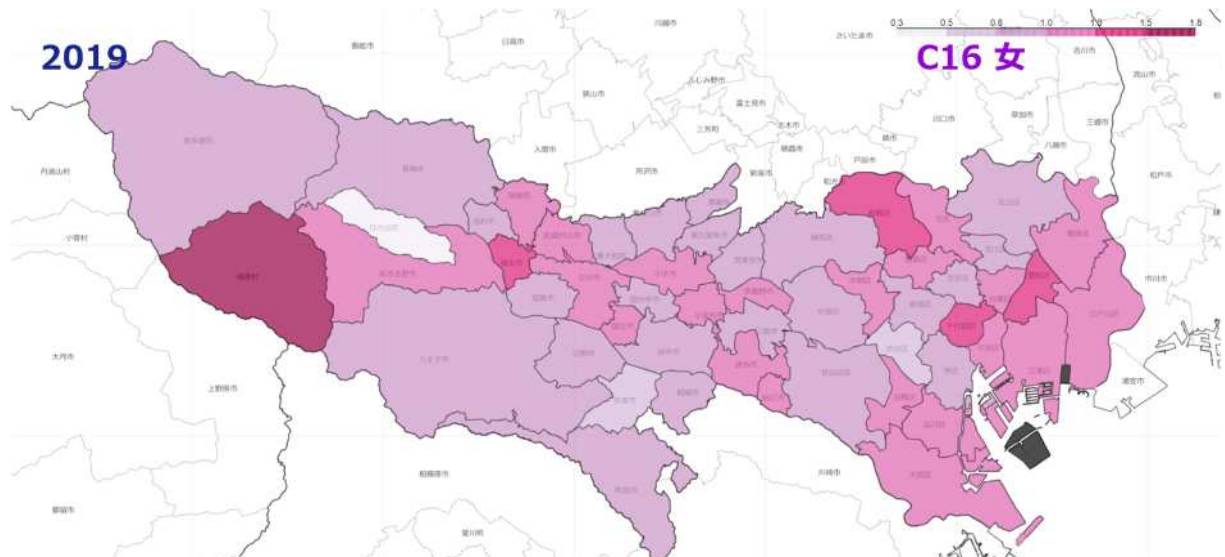


図 2-17-5 区市町村別がん罹患 大腸（上皮内がんを除く） 男性（2019年）

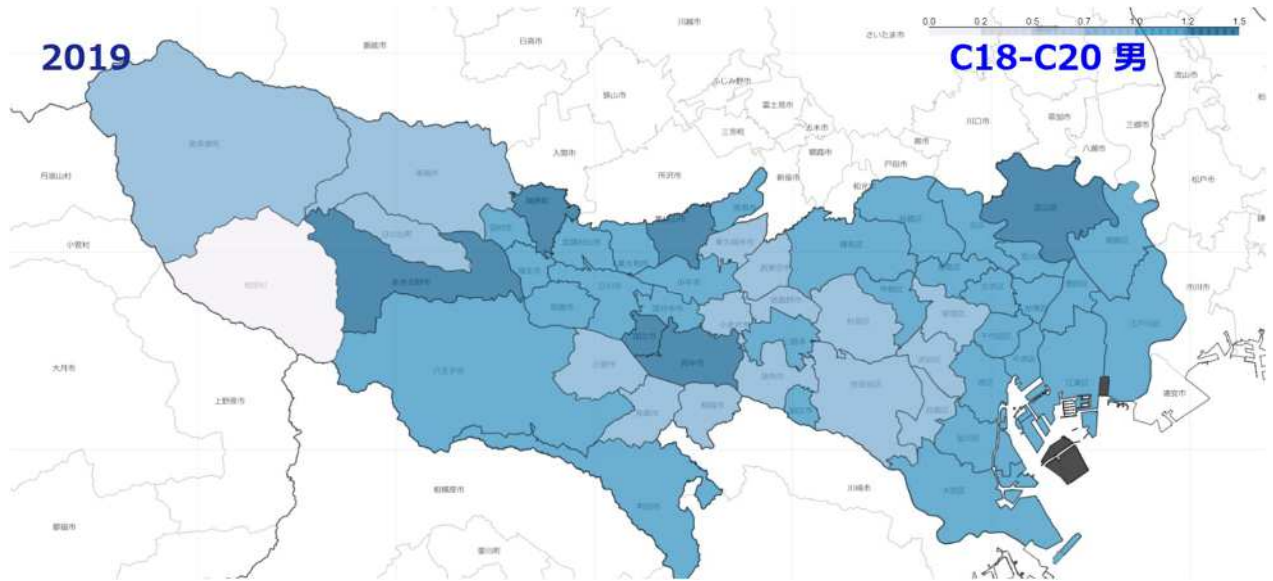


図2-17-6 区市町村別がん罹患 大腸（上皮内がんを除く） 女性（2019年）

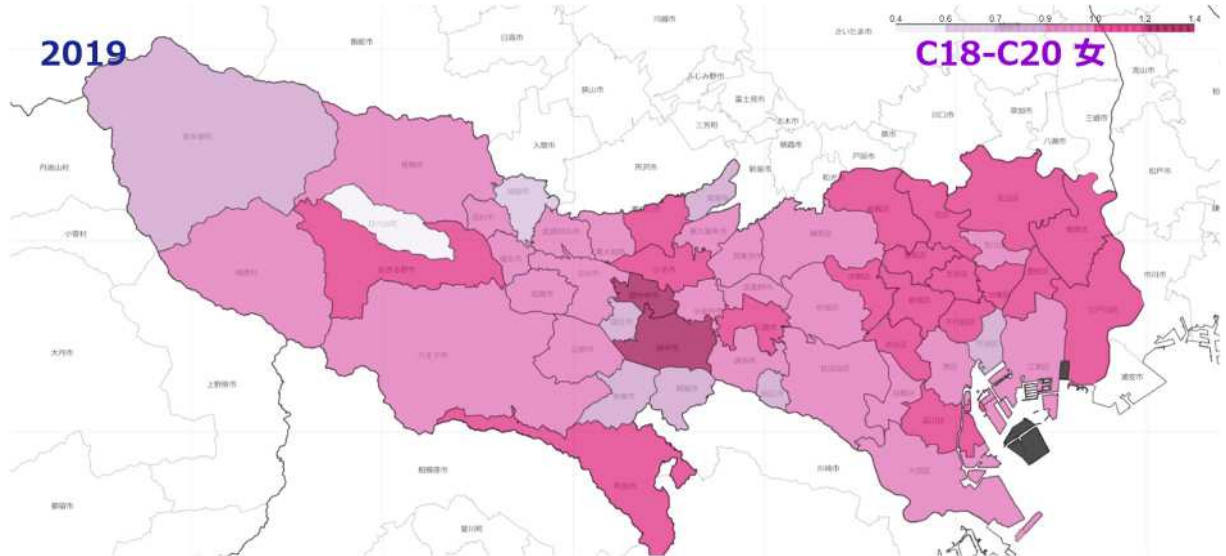


図2-17-7 区市町村別がん罹患 肺（上皮内がんを除く） 男性（2019年）

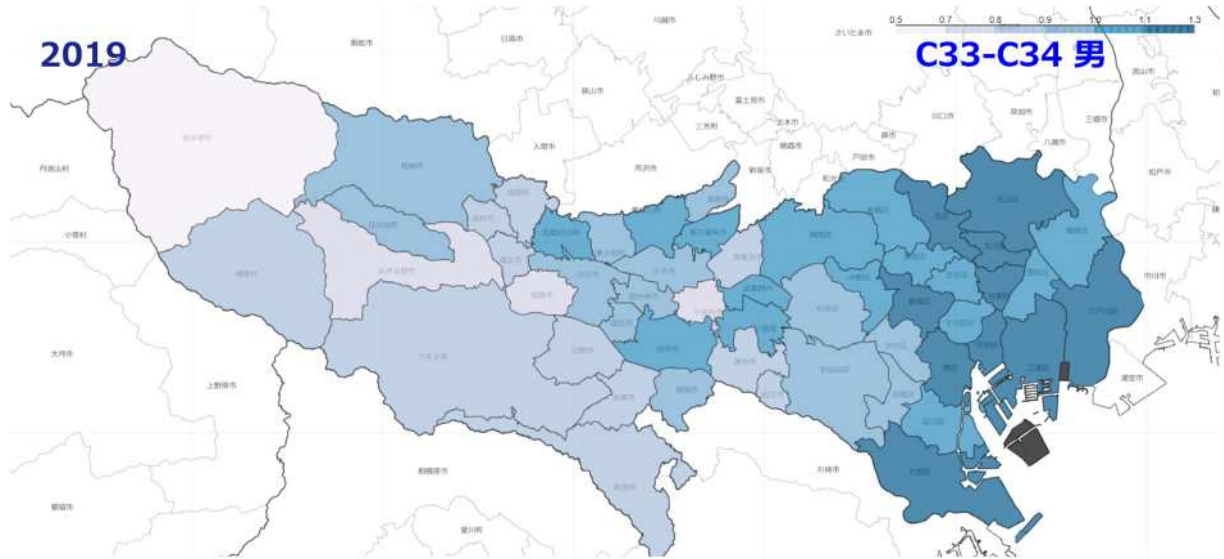


図2-17-8 区市町村別がん罹患 肺（上皮内がんを除く） 女性（2019年）

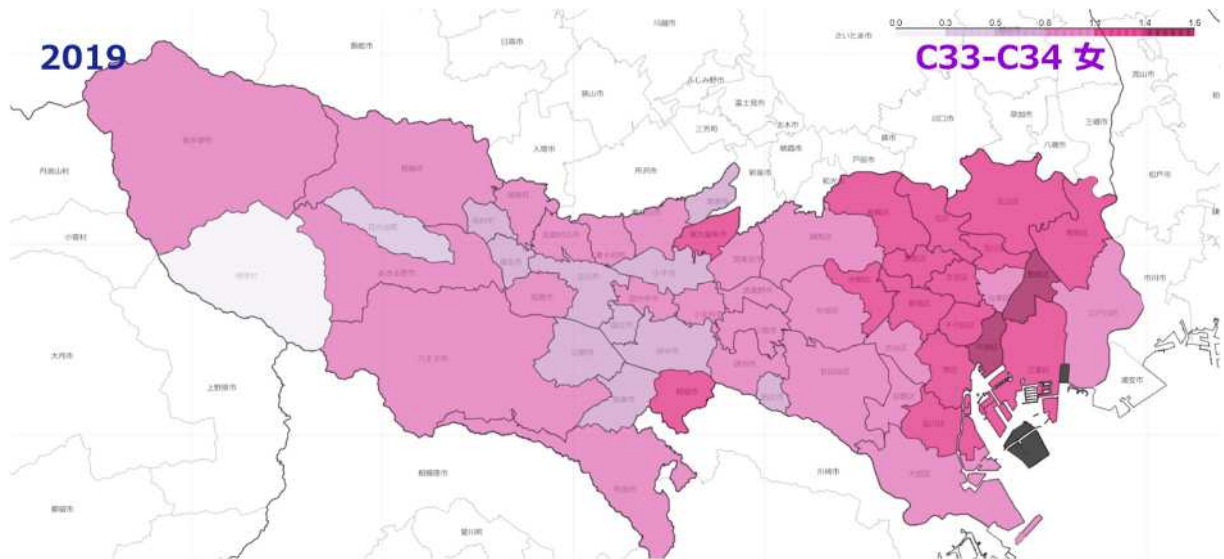


図2-17-9 区市町村別がん罹患 肝臓（上皮内がんを除く） 男性（2019年）

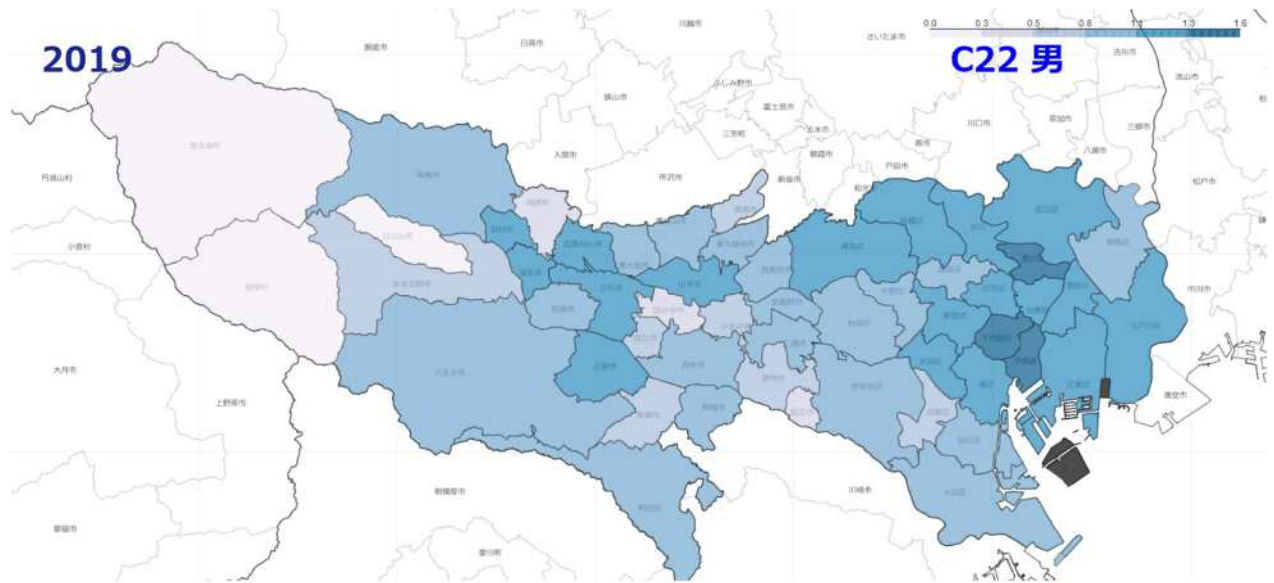


図2-17-10 区市町村別がん罹患 肝臓（上皮内がんを除く） 女性（2019年）

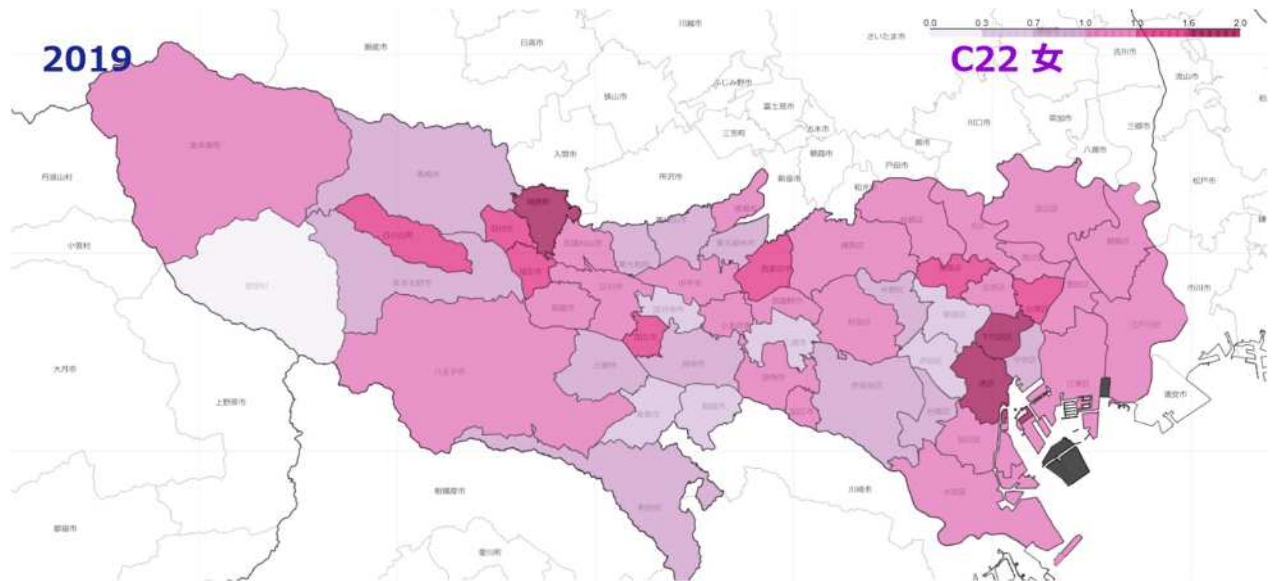


図2-17-11 区市町村別がん罹患 乳房（上皮内がんを除く） 女性（2019年）

